

開講年度：2026

科目名	合同チーム医療演習 Team-based Medicine Practicals	題目（副題）	
担当教員、教員連絡先内線	柴田 有亮 他	5821	
学年、講義期間、曜日・時限	4 年	後期（随時）	金曜・4 時限 金曜・5 時限
単位数、講義室	1 単位	医学科第 1 実習室 保健学科 3 1 1 講義室 保健学科 2 1 1 講義室 医学科第 2 実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇔ 授業達成目標 M26カリ・医学, M25カリ・医学, M24カリ・医学, M23カリ・医学, M22カリ・医学, M21カリ・医学 ≪問題解決力≫患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して適切に判断し必要な行動ができる。 ≪対人関係形成・協働力≫患者やその家族と十分な医師の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。 ≪プロフェッショナリズム≫温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。		
臨床実習前の到達目標	・患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームド Consent などの意義と必要性を説明できる。 ・講義、教科書、検索情報などを基に、自らの考えを示すことができる。 ・チーム医療の意義を説明できる。 ・チーム医療における医師の役割を説明できる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	患者ならびに家族を中心とした全人的なヘルスケアを提供するためには、患者が抱えている問題やニーズに応じた異なった能力・技術・視点を持つ多職種が、協働的なチームを作り対応することが必要となります。 そこで本演習では、医学科・保健学科4年生の合同演習を通して、患者(家族) 中心のチーム医療のあり方や、関連職種間における専門性の尊重と担うべき役割、患者(家族) を含めたチームメンバー間のコミュニケーションのとり方、確固たる倫理観など、患者（家族）にとって有効なヘルスケア ＊本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。 ＊本授業は、担当教員の医療機関における医療職者としての実務経験を生かして行われます。		
授業の概要・一般目標	1. 他職種が持つ専門的な知識や技術について説明することができる。 2. 他職種間において互いの専門性を尊重する姿勢・態度を実際に示すことができる。 3. 患者ならびに家族にとって望ましい医療あるいは療養生活とは何かを考え、具体的に提案することができる。 4. 患者(家族)がかかえている問題を解決し、ニーズに応じていく上で、かかわりが必要と考えられる専門職について具体的に説明することができる。 5. 患者中心のヘルスケアチームを構成する上で患者と医療者の関係性の要点や、患者が積極的にチームに参加できるようなかかわり方の要点について説明できる。 6. 協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報や資源の共有化、メンバー間での調整のあり方の要点について説明できる。 7. 事例課題を通して、チーム医療における課題を検討し、それぞれの職種の立場から解決に向けて取り組むことができる。		
テキスト、教材、参考書	参考書： 細田満和子：「チーム医療」の理念と現実-看護にいかす医療社会学からのアプローチ，日本看護協会出版会，2003 鷹野和美（編）：チーム医療論，医師薬出版株式会社，2004 野中 猛：図説ケアチーム，中央法規出版，2007 世界保健機関（WHO）：国際生活機能分類－国際傷害分類改訂版－，中央法規，2002		
履修上の注意	本演習では、リアリティーのある模擬症例とその家族を設定し、それらにおける医学的、社会、心理的な問題を解決していくためのヘルスケアチームとしての関わり方について、医学科生・保健学科生による合同のグループワークでの議論を通して学んでいきます。また、演習の最後には、それぞれのグループが議論した内容をパワーポイントスライドにまとめてeALPSにアップロードし、10グループ単位で学生同士の相互評価を行います。（発表会に変更の可能性もあります） なお、「授業概要」で述べた通り、本演習は、十分な感染対策をとった上で対面でのグループワークを行うことを予定していますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、Web会議システムを用いたオンラインでのグループワークに変更する可能性があります。その場合は使用システムやインストール方法等を別途指示します。		

授業の形式、視聴覚機器等の活用	医学科、保健学科（看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻）の学生を組み合わせ、8～9名でグループを構成して、模擬症例に対するチーム医療の実際をグループワークを通して学んでいきます。新型コロナウイルス感染症対策の関係でオンラインで実施する場合は、あらかじめ詳細を別途伝達します。
成績評価の方法	①グループワークの課題の提出状況（計6課題）、②グループワーク成果物に対する学生同士の相互評価、③グループワークの成果物に対する教員の評価に基づいて総合的に評価します。
成績評価の基準	①グループワークの課題の提出状況（10点×6課題）、②グループワーク成果物に対する学生同士の相互評価（1位：10点、2位：9点、3位：8点、4位：7点、5位：6点、6位：5点、7位4点、8位：3点、9位：2点、10位：1点）、③グループワークの成果物に対する教員の評価（0～30点）に基づいて総合的に評価します。 提出課題ならびにプレゼンテーションの内容の評価については、下記の基準で行います。 秀：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、十分に適切である。 優：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、概ね適切である。 良：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、基本的なレベルにある。 可：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、最低限のレベルにある。 不可：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、最低限のレベルに達していない。 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	グループワークに関する5時間程度の予習と復習を毎回行うようにしてください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間20時間（4時間×5回）＋ 自己学習時間25時間（5時間×5回）＝ 45時間
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問、相談への対応）	質問、連絡、相談など： 木村貞治：tkimura@shinshu-u.ac.jp 森淳一郎：jimori@shinshu-u.ac.jp